

1・20法大包围デモへ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2015年12月21日
No.350

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

スト弾圧粉碎し、安倍打倒のゼネストへ！

京大同学会・作部君アピール

京大同学会中央執行委員長の作部羊平です。10・27京大反戦バリストから2ヶ月近くが経過し、学生の闘いはますます高揚しています。京都大学からこの間の闘いを報告します！



サークル非公認化を粉碎した！

「自由の学風」を標榜しリベラルを気取ってきた京都大学においても、学生への管理と弾圧がどんどん強くなっています。

京大当局は今年6月、総合人間学部が管轄するサークル（＝仮承認団体）を承認制度ごと廃止することを決定し、「ボックスを明け渡せ」と迫りました。さらに「モノ言うサークル」として京大当局と立て看板問題などで争ってきた特定の2団体に関しては「全学公認団体への申請を認めない」としました。こうしたサークル潰しに対して、2団体を中心となった「総人仮承認取消問題連絡会（総仮連）」は当局と交渉を続け、ついに12月9日に「仮承認団体制度を存続する」という通達を勝ち取りました。これは、この間同学会中執をはじめ、いくつもの学生組織やサークルを一方向的に非公認化し、「非公認団体との交渉は一切行わない」としてきた京大当局の学生弾圧を、ひとつうち破った重要な勝利です。

そして翌12月10日、総仮連が中心となって、京大構内を一周する昼休みデモがうち抜かれました！ 当日は時

計台前に「ふなっしー」や「総仮レンジャー」などに仮装したり、着ぐるみを着たりした学生が20名ほど集まりました。そして新自由主義大学の現状を憂うふなっしーに対して颯爽と登場した赤レンジャーが「くじける必要はない！ 総仮連はサークル非公認化をぶっ飛ばした。団結して行動すれば勝てる。今日はデモに行こう！」と宣言する小芝居のあと、デモに出発しました。京大生の反応も良く、次々とビラが吸い込まれていきました。デモの最後に同学会中執からも連帯の挨拶をしました。

怒りの決起がはじまった！

現在の同学会は、3・11福島第一原発事故以降の御用学者の台頭を受けて、2012年春に3000票を超える執行部選挙をもって再建されました。これに対して京大当局は即座に活動実態のない同学会旧役員を「公認」とし、同学会中執を「認めない」とする告示を出して、申入書の提出や教室利用を含むすべての権利を奪い弾圧しています。

約40名の学生・教職員が参加した12月17日の副学長情報公開連絡会の場でも、改めてこの京大当局のあり方に対する怒りが爆発しました。口火を切ったのは入学して1年も経たない学生でした。川添副学長を目の前に、「『公認』同学会の活動が一切不明になっている。メー



ルを送っても無視された。これを自治会として公認するのはおかしい」と啖呵を切ったのです。新たな決起が生まれています。これに対して川添副学長は「我々も不健全だと思う」と言う一方で、「旧同学会役員が誰かは言えない」「公認は続ける」と答えました。ふざけるな！

全国大学ストから改憲阻止、安倍打倒へ！

同学会中執は、9月19日の「戦争法」強行成立を受けて、すべての怒りを選挙に「のみ」流し込もうとする共産党やSEALDsといった勢力に対して、10月27日に本当に戦争を止める力を示す「現場からのストライキ（日本の大学では15年ぶり）」に立ち上がりました。選挙だけでは何もかわりません。労働基準法違反の「ブラック企業」がまかり通る現実。選挙で選ばれた京大・山極総長が「対話を重視」「大学は学生が主体」といいながら実際には学生との話し合いを拒否し、サークルを非公認化し、TOEFL受験の強制やキャップ制など管理強化を進め、職員の賃下げを強行している現実。大学の経営を学外の資本化が握り、予算を国が握って大学を「金儲けと戦争」の道具にする中で、10・27ストは学生が決断して行動に立ち上がったとき、こうした腐った大学のあり方を変える「力」を持つことを示しました。そして情報公開連絡会における1回生の決起は当局の攻撃を団結の拡大に転じる展望を、仮承認団体存続の勝利は多くの学生が団結して行動したときに実際に勝利をもぎ取れることを示しています。

京大当局は今、直接警察権力にお願いして作部羊平を「威力業務妨害罪」で逮捕させようとしています。しかし、闘いが広がる中で、11月14日の実況見分以降、今に至るまで何のアクションをとることもできずに右往左往しています。追い詰められているのは京都大学当局・山極総長体制です。

同学会中執はスト弾圧の策動をはね返し、全国の労働者・学生と共に新自由主義大学粉碎・改憲阻止・安倍政権打倒まで闘います。

12・5拡大中央委員会の感想

今迄、マルクスが生きた時代から資本主義は激しい歴史を歩み、極端に複雑化し、不明瞭な体制を齎したから、共産主義はこれ等の変化に当たって改革されるべきであると思っていた。しかし、学習会に参加し、体制が複雑化したという事はブルジョアが労働者の闘志を鎮定する為にプロレタリアに思わせたい作り話に過ぎず、実は資本主義の最も根本的な基盤である階級対立は全く変転していない事に気が付いた。従って、現代はマルクスとエンゲルスが経験した時代と同じ様に資本家対労働者という階級闘争で世界が動くのだ。しかし、九割の人口が制圧されている社会が崩壊しないのは、必ず庶民の中で支配者と協力する人が居るからである。残念ながら、近頃、階級闘争が薄くなって来ている。

全学連ほど仲間が助け合う組織を今迄見た事が無いと言っても、決して過言ではない。正に共産主義的な組織である。学習会のみならず、飲み会の時も、尊敬する様な同志に囲まれ、胸が暖かみに満ち、喜びを味わえた。皆さんの話を聞いて、如何にも同感し、大変勉強になった。正直言うと、全学連の人々とは大きな差を感じた。皆は学生でありながらまるで研究者の様に知識が豊かで、現代社会の問題を誰よりも意識し、非常に深い理解力を持っている。それに対し、古典や概説などを読んで独学して来た僕は皆の後ろで追い付こうとしている。やはり成長するには、一人より仲間と共に歩いた方が効果的であり、そういう訳でこれからも全学連の皆と共に革命を目指したいと思っている。（中四国学生・A）

【当面する行動方針】

●1・20法大包囲デモ ～法大闘争10年！ 武田君処分撤回！～

1月20日（水）12時半に市ヶ谷キャンパス集合→13時にデモ出発（13時半に終了予定）

【呼びかけ】法政大学文化連盟／全学連

●武田雄飛丸君「無期停学」処分撤回裁判控訴審・第2回

1月20日（水）14時半～ 東京高裁822号法廷にて

